Ça va? ⊆⊇⊇⊆⊇⊆⊇⊆ イントロとエンディング ⊆⊇⊆⊇⊇⊇⊆⊇Junko Higasa

私は飛行機の離陸時が大好きである。滑走路へ入って徐々にスピードを増し、車輪が陸を離れ機体が宙に浮いた瞬間とその直後の上昇感。これほどワクワクすることはない。やがて機体が上昇し続ける間に少しずつ高揚感はしぼみ、平衡飛行に入ってから間もなく私は退屈感に襲われる。また私は飛行機の着陸時も好きである。これはグーッと降りて着地するまでの技術力にワクワクする。これらが何を意味するかといえば、いきなり上がったり下がったりするのではなく「徐々」に加速、あるいは減速していく過程が好きだということである。音楽でいえば「徐々に速く」アッチェレランド(accelerando)に最高にワクワクするということである。ついでに言えば「徐々に遅く」はリタルダンド(ritardando)あるいはラレンタンド(rallentando)であるが、私は略語の accel.はアクセル感覚でよいとして、rit.か rall.だったら、rall 回転して戻るより rit.スイッと戻るイメージの方がほうが好きである。ということは戻るときは滑らかに弧を描いて戻るより宙返りしても戻りたいということ？つまり楽しみは大きく、寂しさは小さめに。おそらく人との出会いでも一緒なのだろうけれど、初対面で一気に盛り上がるよりは徐々に仲良くなり、離れるときはしつこくメソメソせずにサワヤカにいきたいロなのである。何故なら初対面で盛り上がるのは線香花火。一気に気分全開してすぐしぼむ。離れるといってもこの世の終わりじゃあるまいし、多分明日も生きているわけだから、あとは互いの意思の疎通次第。こんな好みの傾向は人生すべてに、とくに藝術に顕著に現れるように思う。

さてそこで最近、自分の気がいかに短いかを実感する。年のせいか？反応的にいえば若いころの方がもっと瞬間湯沸かし器だった。しかし物の感じ方が変わってきたのだろう。若いころは退屈すれば心の中で「フン！」、今は心の中で「ゲンナリ」どちらが元気かと云うと「フン！」のほうである。ゲンナリすると心身ともに疲労のるつぼに落ちて容易に立ち直れない。したがって音楽を聴く用心深さにさらに拍車がかかる。歌でいうなら、長い前奏で妙な踊りを入れないでもらいたいのが本音。優れたダンサーならともかく。因みに本格的バレエや日本舞踊や民族舞踊は一向に差支えない。

私はクラシックを聴くときは指揮者のリズムに呼吸を合わせ、その他の歌の場合は演奏者に呼吸を合わせているものだから、盛り上がる瞬間がくじかれるとズッコケる羽目になる。例えば指揮者が棒を振り上げるとき、私の心は指揮棒が上がる方向へすでに運動を開始している。ピアニストが鍵盤に指を振り下ろす瞬間、その音の流れる先へすでに心が向かっている。そのように私は上昇の瞬間を予測的に受け止めているのだ。だからイントロですでにある程度盛り上がり、これから上昇方向へ向かうだろうときにまた滑らかな繰り返しへ戻っては、滑走路を 2 周しないと空へ飛びあがれない感覚でゲンナリしてしまうのだ。私には「曲の良さを聴かせるためにイントロが長い」とはどうしても思えない。もしそのイントロ自体が優れた音楽だったら、歌なしで充分に曲として成り立つはずだから「イントロで退屈」はあり得ない。というわけで私は歌に関しては 4 小節イントロが最高に好き。情緒があれば 8 小節。

同じことがエンディングにも言える。未練なく潔く。しかし潔すぎてプッツリではなく適度に。おいしい料理を引き締める役割が最後のデザートにかかっているように、音楽も「締め」にかかっている。フィナーレの味がすべての印象を決める。(2012.7.25)

⊆⊇⊇⊆⊇⊆⊇⊇⊆⊇⊆⊇⊆⊇⊆⊇⊇⊆⊇⊇⊆⊇⊇⊆ *Ça va, merci. Et toi?*